御願神事写真コンテスト

後援　北國新聞社

応募要綱

題　材	菅生石部神社　御願神事
サイズ	4ツ切（ワイド可）
締　切	3月10日必着
提出先	御願神事保存会事務局
発　表	3月末北國新聞

最優秀賞	1点（賞状　賞金1万円　記念品）
優秀賞	1点（賞状　賞金5千円　記念品）
佳作	2点（賞状　記念品）
保存会賞	1点（賞状　記念品）

注意事項

- 入賞作品の版権は主催者に帰属します（ネガ、スライドまたはデータを提出）
- 応募作品は本年御願神事を題材とする未発表の作品に限らせていただきます
- 応募作品は理由の如何を問わず返却いたしません
- 応募は必要事項（タイトル、氏名、住所、電話番号）を明記の上提出下さい
- 応募作品は写真展として市内はじめ各所に展示させていただきます

主催•提出先　御願神事保存会　電話 0761-72-0412
〒922-0011 加賀市大聖寺敷地ル乙81菅生石部神社内

好評により復活！（限定）

御願神事守

御願守、焼印　初穂料1000円

竹割神事終了後、拝殿にて御願守を授与いたします。

御願箸（夫婦）
初穂料 1000 円

祈願絵馬
初穂料 1500 円

青竹奉納　初穂料 1000 円（1 本）

境内にて販売中　・加賀の酒「御願」　・ごんがん寿し　・御願まんじゅう　・温かいお飲物

●お昼は、冬の加賀をご堪能下さい●

加賀料理　ばん亭
石川県加賀市大聖寺東町４丁目 11 番地
（加賀市役所前）
電 話：0761･73･0141
FAX：0761･73･2724

料亭　山ぎし
〒922-0816
石川県加賀市大聖寺東町2-24
TEL：0761-73-1177　FAX:0761-73-0480

※便利なシャトルバスをご利用ください

石川県無形民俗文化財指定

御願神事

春をつげるまつり

ごんがんしんじ
竹割まつり

2月10日 午前11時

加賀・江沼総鎮護
しきぢ天神
菅生石部神社

加賀市役所⇆会場　を運行するシャトルバスをご利用ください。
乗り場は、橋を渡って右手にございます。
●運行時間：午前9時～午後1時

御願神事保存会　石川県加賀市大聖寺敷地ル乙81菅生石部神社内　TEL 0761-72-0412

写真/中森勇人「威風凛々」

ごんがんしんじ

「竹割まつり」の異名を持つ御願神事は、毎年2月10日に行われる例祭。天武天皇が国家の平穏を願い、山幸彦（炎出見尊　ほほでみのみこと）と、兄・海幸彦（酢芹尊　すせりみこと）の神軍にならい、始められたとされています。
竹割を行う青年は、神社の東側にある敷地と西側にある岡町を中心とし、身を清めて奉仕します。神事に用いられた竹を持ち帰ると、災厄を除き、今年1年、家内安全で健康に過ごすことが出来ると言われています。1年の大願を願う日とし、時節柄受験合格を祈る人も多くいらっしゃいます。

知っていますか？　御願神事ミニ知識

Q. 神事の青竹は何本？

奉納の竹ですので毎年変動はありますが、数は約 400 本、長さは約 2 メートルです。

Q. 大縄の大きさは？

長さ約20メートル、直径約30センチ、重さは約180キロにもなります。神事直前の日曜日などに、敷地の町で大縄を編む光景がみられます。

Q. 神事まで鈴や太鼓が鳴らないのは？

祭り前の静寂さと清らかさを保つ為、2 月 1 日から盤木が鳴るまで鈴や太鼓などの鳴り物は禁止となっています。

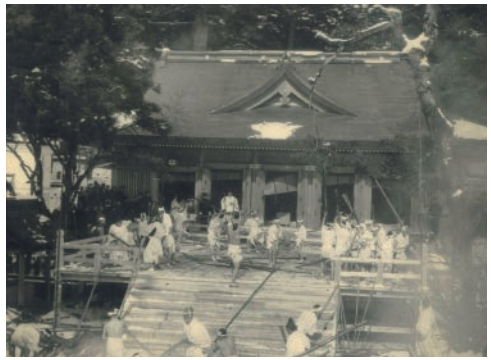
Q. 神事に用いられた竹を持ち帰る人がいますが？

（1）天井裏に置くと雷避けになる
（2）玄関先に置くと魔除けになる
（3）箸にすれば身体健康、病気平癒、虫歯予防になる
そのほかにも大縄の藁を魚編みに結ぶと豊漁になる等、様々な言い伝えがあります。
この神事に用いられた竹や大縄には、悪事災難を除き、疫病を免れる霊験があります。
なによりも 1 年の無事や様々な願いを祈る心が最も重要なようです。

御願神事の流れ

午前 11 時より、弊殿において宮司による祝詞奏上の後、境外の鳥居前に待機していた敷地、岡、両区の青年・壮年数十人が白装束で境内に突入し、炎々と燃える御神火を潜り、2 メートル余の青竹を境内境外問わず激しく地面に打ち叩く姿は壮絶をきわめます。続いて拝殿より長さ 20 メートル、太さ約 30 センチもある、大蛇に擬した長縄を引きずり出し、境内境外を引き回した末に、敷地天神橋上より大聖寺川に投げ入れる。その勇壮さに毎年多くの地元民や見物客から喝采を浴びています。

昭和12年の御願神事


昭和14年の御願神事

昭和29年の御願神事

昭和29年の御願神事

由緒

菅生石部神社

当社は敏達天皇の願いにより、宮中でお祀りしていた神様を弟の用明天皇が（五八五）にこの地にお移ししたことに始まります。
創祀以来続くお祭りには天神講、敷地祭がありますが、白鳳五年（六七六）天武天皇によって始められたと伝わる御願神事は現在、石川県無形民俗文化財の指定を受け、例祭（竹割まつり）として続いています。
中世には福田の庄が京都北野天満宮領となったことから天神信仰も盛んになり、別名、菅生社、菅生天神、敷地天神とも呼ばれるようになりました。そして越前、美濃に勧請され、全国の斎藤氏の氏神にもなったところから多くの関係社が存在するようになりました。
また十三世紀から十六世紀にかけては春秋二回の居入祭に朝廷のお使いが訪れました。
加賀國一ノ宮白山比咩神社に並ぶ二ノ宮。